

STEP

to the future



Index

- P2-3 開催概要、第1部講演
- P4-5 第2部トークセッション
- P6-7 グループワーク～発表の様子
- P8-9 講評

理工系の未来を

10年後の社会は、どんなふうになっているのでしょうか？

今、理工系に進む女子の割合が少ないことが、私たちの未来にどんな影響を与えるのか、一緒に考えてみませんか。

開催概要

2025.7.21 (月・祝) 13:00 - 16:00

会場 日本科学未来館 7階 未来館ホール
東京都江東区青海2丁目3番6号

参加者 74名 小学生 2名(男子1名 / 女子1名)
中学生 20名(男子7名 / 女子13名)
高校生 21名(男子6名 / 女子14名 / その他1名)
保護者 24名、教員・研究者等 7名

タイムスケジュール

- 13:00～13:05 ご挨拶 日立財団 理事長 中畑 英信
- 13:05～13:35 第1部 講演
「マンガとアニメが科学の入口 ～みらいの理科は楽しくなる～」
柳田 理科雄 氏
- 13:35～13:45 質疑応答
- 13:45～13:55 休憩
- 13:55～14:40 第2部 トークセッション
「ジェンダーバイアスからみた理工系女子のみらい」
横山 広美 氏、京極 大助 氏、柳田 理科雄 氏
- 14:40～14:50 参加者グループ分け
- 14:50～15:35 グループワーク
「私たちが描く理工系の10年後」
- 15:35～15:55 発表／共有
- 15:55～16:00 講評
横山 広美 氏、京極 大助 氏

理事長挨拶

開会によせて

当財団は、2016年より、理工系分野の進学を志す女子中高生を支援する取り組みを継続してまいりました。これまで、理工系出身の女性へのインタビューや、進路選択の一助となるワークショップ等を通じて、理工系の魅力を伝えてまいりましたが、依然として女子学生の進学率は伸び悩んでいるのが現状です。この課題は、単なる教育分野の問題にとどまらず、社会全体の構造的な課題であると私たちは認識しております。本日のイベントでは、女子学生のみならず、男子学生、保護者、教育関係者の皆さまにもご参加いただき、この問題を社会課題として多角的に考察し、意見を交わす場を設けました。世代や立場を超えた対話を通じて、新たな気づきや未来への展望が生まれることを期待しております。



デザインする

～ 私たちが描く 10年後の社会 ～

もっと多くの人が自分の可能性に気づき、一步を踏み出せたら、社会はきっと、もっとおもしろくなるはずです。 //

登壇者プロフィール



柳田 理科雄氏

1961年、鹿児島生まれ。作家・明治大学兼任講師・空想科学研究所主任研究員。

理科雄は本名。東京大学理科I類中退。96年『空想科学読本』を上梓、ベストセラーに。99年空想科学研究所を設立し、マンガやアニメ、特撮やゲームなどの世界を科学的に研究する試みを続けている。著書に『ジュニア空想科学読本』『ポケモン空想科学読本』などがある。学校図書館むけに『空想科学図書館通信』を2007年から無料で配信。

横山 広美氏

東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構、学際情報学府（大学院兼担）教授。専門は科学技術社会論。科学と倫理を中心に広く関心を持ち、研究を行う。現在は科学者の信頼、サステナブルAI（あるいはグリーンAI）やAI for Science（AI4S）など先端科学技術の倫理的課題（ELSI/IRRI）、理系女性が少ない理由（STEMジェンダー）やビッグサイエンス科学と社会の関係に広く関心を広げている。大学院まで高エネルギー素粒子実験でニュートリノ物理を研究した後、科学論を専門とする。博士（理学）、理系出身の人文社会科学の研究者。



京極 大助氏

奈良女子大学理学部生物科学コース准教授。京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（理学博士）。専門は進化生態学。特にオスとメスの進化的な利害対立に注目した研究を昆虫、植物、数理モデルなどを用いて行っている。個体群生態学会奨励賞、日本生態学会鈴木省受賞。こうした研究のかたわら、日本のアカデミアにおけるジェンダーギャップに関する論文を2023年に国際学術誌に発表。日本学術振興会特別研究員、兵庫県立人と自然の博物館研究員などを経て2025年より現職。



第1部 講演

マンガとアニメが科学の入口

～みらいの理科は楽しくなる～ 柳田 理科雄氏



第1部のオンライン講演では、柳田先生にご自身が科学に興味を持ったきっかけや、漫画・アニメの世界の科学者たちの魅力を語っていただきました。幼少期にウルトラマンやロケット打ち上げに刺激を受け、科学者への憧れを抱いたこと、また『名探偵コナン』の阿笠博士の発明を科学的に検証するなど、空想科学の視点で作品を楽しむ姿勢を紹介。近年は若い女性科学者キャラクターも増え、ウィンリィ『鋼の錬金術師』や白鳥スワン『特捜戦隊デカレンジャー』など、機械工学の天才たちの活躍を例に挙げました。一方、現実の科学はチームで進めるものであり、様々な役割や才能が必要とされると強調。理系に進む際は「自分の苦手」より「やりたい・面白い」という気持ちを大切にしてほしいと聴講者の皆さんにエールを送りました。質疑応答コーナーでは、実験の工夫や大学での授業内容についても触れ、科学の楽しさと多様な可能性を伝えていただきました！

ジェンダーバイアスから見た 理工系女子のみらい

理工系分野における女性の少なさとその背景にある無意識の固定観念（ジェンダーバイアス）について、横山先生、京極先生、柳田先生の3名にトークセッションを通じて多角的に問題を捉えていただきました。

■ 横山 広美 氏
■ 京極 大助 氏
■ 柳田 理科雄 氏

— 本日は「ジェンダーバイアスから見た理工系のみらい」をテーマに、東京大学の横山広美先生、奈良女子大学の京極大助先生、そして柳田先生をお招きしてお話を伺います。まず、ジェンダーバイアスという言葉と理工系女子の関係について、横山先生からご説明いただけますか。

横山：ありがとうございます。私は中学2年生の時に物理学に興味を持ちましたが、「女の子なのに物理？」と周囲から反対され、ショックを受けました。これは典型的なジェンダーバイアスの例です。社会には「文系は女性、理系は男性」といった固定観念が根強くあり、それが個人の可能性を狭め、社会全体の損失にもなっています。最近は企業や大学が危機感を持ち、改善が進みつつありますが、特に工学やコンピューターサイエンスなど、女性が少ない分野では社会の願いと現実ギャップがあります。今は男女ともに自由に進路を選べる社会が理想とされ、ジェンダーバイアスを取り払うことが重要です。

— 京極先生、ご自身の経験も踏まえてジェンダーバイアスについてお話しください。



京極：私は生物学が専門ですが、研究現場でもジェンダーバイアスに関心があります。バイアスは男性だけでなく、女性も含めて誰もが持っているものです。悪いことではなく、目の錯覚のように無意識に生じるものです。例えば、私が家事や育児をすると「偉

いですね」と言われますが、女性が同じことをしてもそうは言われません。こうした些細な違いも積み重なると精神的な負担になります。ジェンダーバイアスは露骨なものだけでなく、日常の小さな言動にも潜んでいることを意識することが大切です。

— 柳田先生、アニメの世界にもジェンダーバイアスはあるのですか？

柳田：ありますね。古い漫画ほど顕著です。例えばドラえもんでは、のび太やスネ夫のお母さんは専業主婦で、働いているのはジャイアンのお母さんくらい。最近は女性が前面に立つ作品も増えましたが、戦うのは男性、女性は支援役という構図が根強く残っています。読者にとって受け入れやすい形が、ジェンダーバイアスを温存している面もあると思います。



— 理工系に進む女性が少ない現状について、横山先生、具体的な数字を教えてください。

横山：OECD諸国の中で日本は理系女性の割合が最下位です。自然科学では世界平均52%に対し日本は27%、工学系では世界平均26%に対し日本は16%です。日本の女子学生は成績が非常に良いのに、大学や大学院では女性が極端に少ない。これは非常にもったいないことです。理系に進みたい女子も多いはずですが、様々な要因で進学を諦めてしまうケースが多い。文系も素晴らしいですが、理系に進む選択肢が無意識に狭められている現状は問題です。



— 京極先生、女子大で教えていて現状をどう感じますか？

京極：奈良女子大学では女子学生しかいませんが、皆さん優秀で楽しそうに勉強しています。私自身は京都大学農学部出身ですが、当時女子学生は30%ほどで少数派でした。今思うと、女子学生は居心地が悪かったのではないかと感じます。

— 柳田先生の東大時代はいかがでしたか？

柳田：女子学生は非常に少なかったです。理科Ⅰ類では定員1,090人のうち女子は1割もいなかったと思います。クラス分けも男女共学クラスと男子クラスに分かれていて、僕は男子クラスでした。大学で知り合った女子は1人もいませんでした。今考えると驚くべきことです。

— 横山先生の著書『なぜ理系に女性が少ないのか』でも社会風土の影響が指摘されていますが、解説をお願いします。

横山：日本のジェンダーギャップは依然として大きいです。政治家や経済参加の女性も少なく、20年前は出産後も働き続ける環境が整っていませんでした。こうした社会風土が理系進学にも影響しています。特に機械工学やコンピューターサイエンスは「男の学問」と思われがちですが、実際は誰でも学べる分野です。大学も改革を進めており、女性の教員やエンジニアも増えています。社会が変化し始めているので、今後は女子学生が理系に進みやすい環境が整うはずで、男子学生にも居心地の良い環境を作ることが大切です。

— 京極先生、ご自身の論文でジェンダーギャップについて発信されていますが、内容を教えてください。

京極：日本学術振興会の特別研究員制度の応募者・採択者データを分析したところ、男性の方が採択率が高く、女性は落とされやすい傾向が明らかになりました。原因は複雑ですが、審査員のバイアスや、応募前の段階で指導教員が男子学生により魅力的なテーマを与えるなど、様々な要因が考えられます。こうした現状を報告することで、社会の認識が変わり、改善につながればと思っています。

— 柳田先生、高校時代の受験体験について教えてください。

柳田：僕が通った鹿児島県の進学校では男女比は男子7割女子3割でした。女子が進学校に行くと「嫁入り先がない」と言われるなど、男尊女卑の考え方が強い風土でした。夫婦は男性が学歴・能力で上回るべきという考えが根強く、女子の進学が抑制されていました。今は改善されていると思いますが、ジェンダーバイアスが意識から消えるには時間がかかると感じます。

— 横山先生、地域性についてどう思われますか？

横山：確かに時代や地域による影響は大きいです。性別役割分担意識が強い親御さんは女子の高等教育自体に反対する傾向があります。世界では女性の大学進学率が高いのが一般的ですが、日本は長らく逆でした。最近は改善していますが、地方では「女に学問はいらない」と学費を出してもらえないケースも残っています。奨学金制度などを活用し、夢を諦めないよう応援したいです。

— 理工系女子が少ないままだと、10年後の社会にどんな影響があるでしょうか。文化を変えるために必要なことは？

横山：文化は絶対に変えられます。海外でも苦勞しながら改革を進めていますし、日本もできないわけがありません。今はスピードが遅いので、もっと早く変えていく必要があります。人口減少社会では若い皆さんが宝です。どんな分野でも面白いと思うことを学んでもらいたいです。企業も皆さんを必要としています。ジェンダー平等は今まさに変革期ですので、前向きに取り組んでいきましょう。

京極：ロールモデルの存在が重要です。女性の大学教員や理系人材が増えることで、若い世代が自分の将来像を描きやすくなります。教室の偉人の肖像画を女性に変えるだけでも女の子の成績が上がるという研究もあります。ロールモデルの提示が行動に大きく影響するので、今後の改善に期待しています。

柳田：理系の勉強は個人差が大きく、男女差ではありません。苦手意識がある人は、実際の理系の面白さを知る前に諦めてしまっていることが多いです。入試問題の難しさが理系の本質だと思い込まず、理解の喜びを積み重ねることが大切です。自分が本当に苦手なのは何か、冷静に考えてみてほしいです。

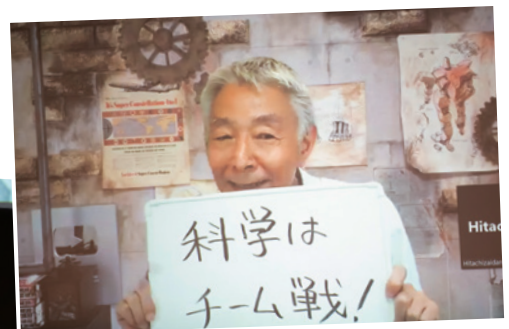
— 最後に、理工系女子を増やすためのアイデアをお手元のフリップをお願いします。

柳田：「科学はチーム戦！」です。やる前から得意・不得意で判断せず、やりたいと思うことに挑戦してほしいです。周囲もその考え方を持つことで状況は良くなると思います。

横山：「自由」という言葉を挙げたいです。社会的制約から自由になり、自分が本当に面白いと思うことを選んでほしいです。文理融合など新しい分野も広がっていますので、自由な発想で進路を決めてください。

京極：「誰もがバイアスを持つことを認める」ことが大切です。サイエンスと同じく、自分の考え方を疑う姿勢を持つこと。そして「個人と社会の利害は必ずしも一致しない」ことを自覚すること。男性優位の社会が個人には楽でも、社会全体には良くない。そうした視点も重要です。

— 横山先生、京極先生、柳田先生、本日はありがとうございました。皆さん、盛大な拍手をお願いします！





中学生 1 班

【今私たちにできること】

- 東京にいる人は情報がすぐ伝わるけど、地方だと情報が伝わるのが遅いという問題を解消する方法を考えなければいけないと思う。
- 女性科学者のアニメキャラは確かにいるけど、眼鏡をかけていて陰キャ、超天才！みたいなタイプが多い。もっと女子から見て魅力的で親しみがわくような、陽キャで等身大の女性科学者キャラがいるといいと思う。



中学生 2 班

【10年後の社会】

- 「昔は〇〇ハラスメントってあったんだよ」と言われてびっくりすることがあるように、10年後に社会では男女平等が当たり前になって差別に言及する人もいなくなっているといい。

【そのために今私たちにできること】

- 女性は進学してはいけないとか、そういう言葉には耳を貸さずに自分の思いを信じて進む。
- 理工系進路選択に迷う他の人たちのロールモデルにもなれるように努力する。

小学生班

【10年後の社会】

- 男女の区別がなくなり、性別を問わず働ける社会になっていると思う。
- 男女という二つだけでなく、トランスジェンダーの人とか、周りからは男女のどっちかに収まっているように見えても、自分はここにいちやいけいになって自分だけ思ったりする人もいるかもしれない。そういう人たちも生きやすい・働きやすい社会になっているといいと思う。

【そのために今私たちにできること】

- 自分が理工系に進学して、その次のもっと若い世代の子たちのハードルを下げる。
- 周りが何を言っても「そういう考えもあるよね」って一つの意見として受け止めた上で、胸を張って進学できると良いと思う。

グループワーク

私たちが描く 理工系の

保護者 1 班

【10年後の社会】

- デジタル化が進み、男女の役割分担が均等に近づいてジェンダーギャップ解消が進むことによって、一人一人の個性や能力が重要になってくるのでは。
- 理工系分野で女性のコミュニケーション能力・発信力が生かされると良い。

【そのために今私たちにできること】

- 男/女がこういう仕事をしなきゃいけない/しちゃいけないという思い込みを解消し、「いろんな活躍ができるんだよ」というメッセージを若い世代に発信していくことが重要。
- 子どもたちには、日常の中の「不思議だな」と思うことが理系の勉強につながる楽しさを感じてほしい。



保護者 2 班

【10年後の社会】

- 介護は女性の仕事という概念がなくなる。
- 個性が生かされる社会に。
- 大学受験制度が変わる。
- 男女格差がなくなっていく。
- 単純作業は機械化・AI化。
- 女性がリーダーに。
- サポート体制の充実。

【そのために今私たちにできること】

- 家事の分担。家族みんなで協力していく。
- 子どもたちにより多くの選択肢を提供できるような社会をめざす。
- 家事の分担の男女差をなくす。
- ジェンダーバイアスに気付き発言・行動していく。
- 子どもの「好き」を尊重する。
- たくさんの遊びや希望や好きなことを生かしていけるものにする言葉と思います。

（その他意見）

私が気づいたことは、（班の中に）今回のイベントについて学校のプリントで知った方もいました。私はインスタでこのイベントを発見しました。ここにも一つの分かれ道があり、情報が入ってくる人・環境に違いがあると思いました。

中学生 3 班

【10年後の社会】

- ジェンダーバイアスは小さくなってきているだろうが、理系・文系に限らず職業に関してのジェンダーバイアスに関しては完全に消えてはいないかもしれない。

【そのために今私たちにできること】

- そもそも文系・理系という分け方を見直すべき。
- 両方に触れる機会を増やすことによって多様な視点が得られて、ジェンダーバイアスも解消に近づくのではないかな。
- 進路を（一度選択したらずっと変えられないのではなく）変えられるチャンスが増えれば良い。

高校生 1 班

【10年後の社会】

- 文理融合が進んでいると思う。
- 海外では文理という分け方ではなく学問ごとにそれぞれ必要な科目を学ぶと聞いた。
- 文理で分けなくて、いろんな授業を受けられるように形態が改善されていると良い。
- どの科目でも、自分たちで説明するアウトプットや、話合って自分の考えてることを伝えることに重点を置く授業をすると、文理融合の社会に近づくんじゃないかな。



高校生 2 班

【10年後の社会】

- 性別関係なく、自由な選択が尊重される社会になっていると思う。

【そのために今私たちにできること】

- 広く学ぶこと。



高校生 3 班

【10年後の社会】

- 科学技術の発達により生活がより便利になっていると思う。
- 理工系の男女比が同じになることで、女性ならではの新たな視点を生かした技術を用いて商品やサービスなどに幅が出てくる。

【そのために今私たちにできること】

- 進学、就職実績を増やし、女性が活躍するロールモデルを増やすことが大切
- 自分も活躍したいという女性が増えて、科学技術の発達につながる。

保護者 3 班

【10年後の社会】

- 現状の問題点として、「男性」とか「女性」という大きな主語で語られてしまっていて、個が重視されていない。また、すぐに周りに影響されてしまう。
- 個が尊重されて、好きなことに何でもチャレンジできて、同じものを好きな仲間と繋がるような世の中になっていると思う。
- そうなることで多様性が実現され、好きなことを追求できる・追求しようと思える社会になるはず。

【そのために今私たちにできること】

- ジェンダーバイアスを AI が勝手に判断してくれたら便利。
- 理系に限らず、好きなことを自由に発信できて、自由に会話できるような社会に近づくため、学校や大学教育制度の改革ができれば良い。
- 親自身が好きなことを楽しんでいる姿を子どもたちに見せることが何よりだと思う。

教員班

【10年後の社会】

- 選択肢の幅が広がる日本社会になっていると思う。
- 服装ひとつを取っても、今会場にいらっしゃる男性の方はモノトーンの色味の方が多い。女性の割合が多くなることで、男性も明るい服を着やすくなったりして、女性だけではなく男性も居心地の良い環境になるはずという話になった。

【そのために今私たちにできること】

- 一つは制度を設けること。強制的にジェンダーバイアスをなくすこと。
- このグループでは理系に進んで実際にジェンダーバイアスで大変な思いをされた方もいて、理工系の学部で女子トイレが少なかったり学部で女子が1人しかいないというお話があった。女子学生の枠を設けるなどをして制度として強制的に女子を増やすことが必要。
- 二つ目は、小さな課題で考えずに、大きな課題をコミュニティ全体で考えることが大切。
- 子どもは生まれつきバイアスがなくて生まれるけれど、どうしても周りからの影響でジェンダーバイアスなどが身につく。特に親からの影響がいちばん大きい。
- ということで、親を教育ということまではいなくても、親御さんに対して「こういうロールモデルがあるんですよ」という理工系に進んだ女性の存在を示す出張授業や講演の機会を設けることで、親御さんの意識改革に働きかけることが大切。



10 年後！

発表を終えて

—— グループワークのまとめにあたって横山先生と
京極先生から講評をいただきました



横山 広美 先生

皆さん、本当にお疲れ様でした。皆さんの発言には私自身も「なるほど」と思うことが多く、とても勉強になりました。これだけ多くの男子生徒さんが参加してくださったイベントは初めてで、皆さんが積極的に意見をまとめてくれたことをとても心強く感じました。社会は男性・女性だけでなく多様な人々で成り立っており、どちらか一方だけで良くしようとしても限界があります。皆で一緒に取り組むことが大切で、今回のように関心のある多くの生徒さん、保護者の皆さんが多く参加してくれるのは日本の未来にとって明るい兆しだと思います。また、先生方や親御さんが参加してくださったことも心強く、特に家事労働の偏りなど、身近なところから改善していくことが大切だと感じました。小学生のグループもインクルーシブな視点でまとめてくれて素晴らしかったです。私も一人の親として、親が安心して子どもを社会に送り出せるよう、社会全体が変わっていくことを願っています。今日は本当にありがとうございました。



京極 大助 先生

皆さんの発表はとてもよく考えられていて感心しました。実は発表中、僕はデータを取っていました。こういう場では男性が発言しやすいと言われていますが、今回は11班中、女性が発表した班が6つ、男性が5つとバランスが良く、「おお！」と思いました。社会の変化をこういう形で実感できて嬉しかったです。また、「子育ては女性がすべき」という意見も社会にはありますが、多様性を認めるというのは、そういう意見もあっていいけれど、自分は自分の意見を持つ、ということだと思います。とても大事な視点です。日本のジェンダーギャップはまだ課題が多く、特に女子学生の皆さんはこれから苦労することもあると思います。でも「何とかしなきゃ」と思っている人がたくさんいるので、一人じゃないということを覚えておいてください。男性の皆さんには、ぜひジェンダーバイアスに敏感になってほしいです。女性の実体験を聞く機会が少ないと気づかないことも多いので、そういう話を聞く機会がなければ「何かおかしいかも」と思ってみてください。最後に、今日のことをたまに思い出して、この問題について考えてもらえたら嬉しいです。ありがとうございました。

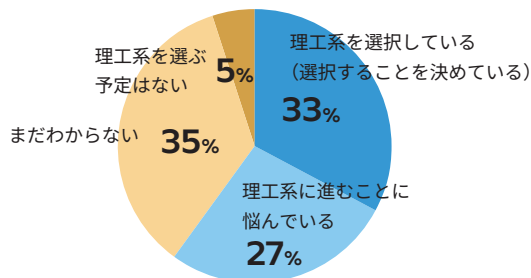


参加者の皆さんの声

小学生～高校生



1. 今後の理工系選択について



2. 理工系に進むとどんな良いことがあると思いますか

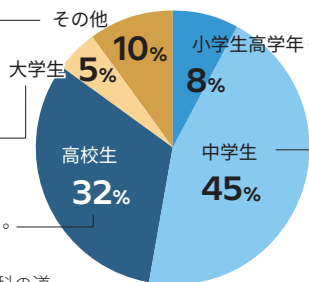
- 知識があるとアニメや漫画をもっと楽しめる。
- 分析が得意になり、学び続けて自分を良くすることができる。
- 物事を論理的に見る力が育つと思う。
- 今私たちが生きている環境を理解することができるようになる。
- 気になったことを自分で解明できる。
- 私たち女性目線の商品が開発されたり、私たちがロールモデルになれる。
- AIやIT技術が進んでいくため理工系に行った方が仕事がある。

3. 進路について、いつ頃から考えるのが良いと思いますか

やりたいことがないと進路は決められない。
無理に考えてもあとから変わってしまうかも。
人生に区切りは無いと思う。

大学生でも進路が決まっていな人も多く、
進路については考えれば考えるほどいいと思う。

中学生までは経験が浅く、よく考えずに決めてしまおうと思ったから。
やりたいことが自分の中ではっきり見えてくる時期だと思うから。
自分自身についてよく考える時期だと思うから。
私は小学校高学年の時点で教師になることを夢見て中学生で理科の道へ進むことをめざしました。高校生になってから様々な分野の知識が増えたので、学びたいことがわかってくると思います。



小さいうちからでも少しずつ考えた方が自分の選択につながると思うから。
早い方が良いと思う。

将来どんな職業に就きたいかをじっくり考えることができる時間があるから。そのための高校・大学に行けるから。
高校受験をする前に自分の進路について考え、その後に志望校を決めるべきだと思うから。
工業高校など専門系の高校もあるし進路の分かれ目だから。
ある程度遠くへ行ったり多くのことに挑戦しやすい時間があるから。
高校生になると忙しくなると思うので、ゆっくり考えられるときに考えた方が良いと思うから。
小学生のうちは進路に関係なく勉強することが大事だと思うから。

4. イベントの感想



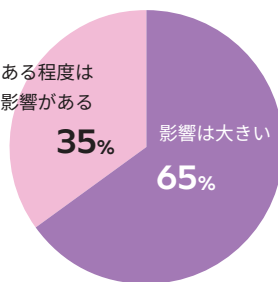
- グループワーク系は苦手だと思っていたけど、やってみたらすごく楽しかった！
- 自分の考えとは違う方向からの意見が聞けておもしろかった。
- だいたい高レベルの話だったけど同年代の人が集まっているから楽しく話せた。
- 柳田先生の講演はすごく分かりやすく面白く、アニメと科学の関係について知ることができ楽しかった。

- グループワークなどを通じて、男女の差について考えることができた。学校でもやった方が良いと思う。
- 普段学校で意識していないことをガツンと目の前に出されたような衝撃だった。
- もっとリケジョが増えるように私たちが頑張らなければいけないと思った。
- 自分の人生が大きく変わるイベントでした。ありがとうございました。

保護者・教員・研究者

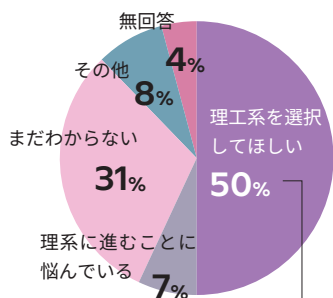
1. 女子の理工系選択に日本の「社会風土」がどのくらい影響していると思いますか

昔よりは減ってきたけどまだ東大の女性率も少ないようだし、これからは理工系分野で女性が活躍できる社会になってほしい。
具体的な理由はすぐ思いつかないが、影響はあると思う。



理工系の男女比が異なるのは不自然。
女性のロールモデルが表に出ていない。
社会も企業もトップはほぼ男性。女性は男性に搾取されてきた。
自分が高校の時も周りは男子は理工系、女子は文系の雰囲気だった。

2. お子様の理工系選択について



好きにしてほしい。
文理どちらでも、本人の好きな道に進んでほしい。

3. イベントの感想

- インスタの広告が面白いテーマだったので親子で参加させていただきました。日常であり考えたことが無かった内容だったからこそ大変学びの多い時間でした。
- 大学入試にAOが増えて、その条件をクリアするために早め早めの進路選択が必要になっているので理工系の進路について幅広い年齢で意見交換できるこのような場は大変重要だと思います。
- 親子ともに毎年楽しみにしているので来年度以降もぜひ実施をお願いしたいです。
- 大変有意義な活動だと感じました。私も学ばせていただきました。企業の研究・開発職においてもジェンダーバイアスがあり、興味深く拝聴しました。
- 柳田先生のマンガを交えた講演で、科学への探究心がより触発されました。想像やイメージは実現可能となることに感銘を受けた。横山先生・京極先生の知性あふれる温かい言葉に感動しました。
- 日立の事業として、理工系女子応援プロジェクトを継続してください

